# 自然観察 NOW

NO.92 野幌森林公園自然情報

発行: 2025年11月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <a href="https://voluran.com/">https://voluran.com/</a>

## 冬は鳥見の季節! 雪景色に見られる野鳥たち

今年の秋もあっというまに終わりに近づき、長い冬が目前に迫ってきました。冬は生き物たちにとって試練の時期ですが、一方でたくましく生きるその姿を見つめるのに適した時期です。特に鳥たちを見るのには最適ですね。冬季に観察できる身近な野鳥として、ゴジュウカラ・オオハクチョウ・カワアイサを取り上げたいと思います。

### ●ゴジュウカラ:冬に観察しやすい留鳥

スズメ目ゴジュウカラ科のゴジュウカラ (Sitta europaea) は、みんなだいすき森の小鳥の代表選手ですね。全国の平地や低山地の森林で通年観察される留鳥ですが、北海道のものは厳密には亜種シロハラゴジュウカラ (S. e. asiatica)ですね。灰青色の背部と白色の腹部、ばっちり決まったダークなアイラ





どんな秘密がその足に隠れているのでしょうか・・・

**写真1:**木の幹で下向きにつかまりつつ、虫を探して穴をあけようとしている瞬間です。キリのように 鋭いくちばしが、幹に向かって垂直に打ち下ろされます。ほかのカラ類よりこうした餌の探し方が得意 な印象です。

写真2:こちらは人慣れした個体。おなかは全面真っ白です。※野生鳥獣への餌やりは自粛しましょう。

### ●オオハクチョウ:冬季に渡来する大型水鳥

カモ目カモ科のオオハクチョウ (Cygnus cygnus) は、ユーラシア大陸北部の広い範囲で繁殖し、毎年秋から春にかけて日本の本州以北の湖沼や河川へ越冬しにやってきます。群れで飛来する姿を秋に見



ると、しっとりした気持ちになってしまいます。

ところで、コブハクチョウ(Cygnus olor)はご存じでしょうか。少しいかつい顔つきの彼らは、ヨーロッパより連れてこられた外来種。飼育個体の一部が野生化。

いまでは日本の各地に定着しています。北海道だと大沼公園、ウトナイ湖、洞爺湖などでみられ、冬に

なると関東地方へ渡りをしていることがわかっています。

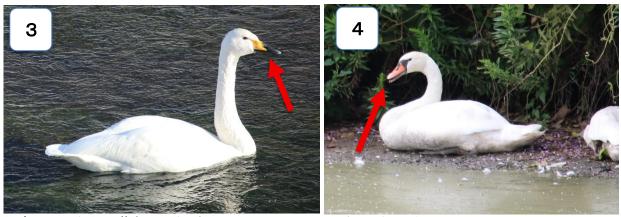


写真3:こちらは黄色いくちばしのオオハクチョウ。なんだか見慣れてしまっているけれど、こんな大きな鳥が頭の上を飛んでいくって、とても素敵なことではないでしょうか。ちなみにくちばしの黒い部分への切れ込みが深いことが、北海道の主な白鳥のもう一種、コハクチョウとの識別ポイントです。

**写真4**:こちらは9月に千葉県手賀沼で撮影したコブハクチョウ。緑の生い茂る中にたたずむ白い鳥には、大きな違和感を感じてしまいます。オオハクチョウと比較すると、くちばしがオレンジ色ですね。

#### ●カワアイサ:冬によくみられるスマートカモ

カワアイサ(学名: Mergus merganser)は、ユーラシア〜北アメリカ大陸中北部で繁殖し、冬季になると日本の沿岸部や河口、内陸の湖沼に南下してきます。一方でここ北海道においても少数が繁殖をしているようで、ウトナイ湖やサロベツ原野などで繁殖が確認されています。



カモ目カモ科に属し、オスは黒と白のコントラストが特徴で、メスは褐色の頭部を持ちます。赤い細長いくちばしが両性に共通します。

**写真5:**1月の十勝港で見られた二羽です。メスがカレイのような小魚をとらえた瞬間、雄が猛スピードで追いかけていきました。水上で餌の取り合いをする彼らはとてもパワフルです。推進力を得るためにバタつかせる足が水面上にまで見えています。

写真6:写真5と同じ個体の雌です。羽を伸ばしてリラックス。首の色目の境界がよくわかります。

冬は生き物の気配が減って寂しくなりますが、厳しい環境でたくましく生きる鳥たちを見つめる良いチャンスでもあります。ぜひ防寒着を着て外へ飛び出しましょう!漁港ではマナーにご注意くださいね。参考「河井大輔ほか.新訂北海道野鳥図鑑.第2版.亜璃西社.2019」「真木広造ほか.日本の野鳥 590.初版.平凡社.2004」(文責: 冨倉圭祐)

観察会予定 2025 年度 \*印の観察会は、要:事前申し込み 電話 011-386-5832

- 1月18日(日) 円山登山観察会 10:00-12:30 円山公園管理事務所前集合 大人@200- 直接会場へ 2月8日(日) 冬の森の観察会 9:50-12:30 野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合 \*
- 3月19日(木) 森の中で春をさがそう 9:50-12:30 野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合 \*